

PRESS RELEASE

タワーレコード・オリジナル企画盤 12/19(水)発売

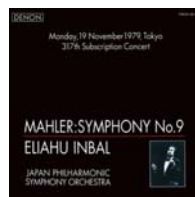
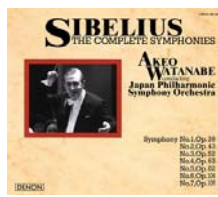
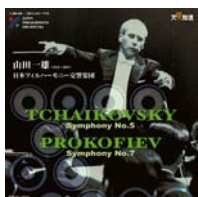
“山田一雄 生誕100周年記念” 日本フィルとの世界初発売音源
～驚異のステレオ録音・オリジナル・マスターテープの最新CD化～コロムビア・日本フィル名演集 3タイトル
～日本コロムビアとの初のシリーズ「The Valued Collection」レーベル開始～

タワーレコード株式会社(本店所在地:東京都渋谷区 代表取締役社長:嶺脇育夫)では、タワーレコード・オリジナル企画盤として、日本フィルハーモニー交響楽団の世界初の発売音源をはじめ、名演集などの音源を中心に全6タイトルを12月19日(水)より発売いたします。

“山田一雄 生誕100周年記念”では、山田一雄(指揮)&日本フィルハーモニー交響楽団による3作品を発売。①1972年収録した解散直前の日本フィルハーモニー交響楽団による「チャイコフスキー:交響曲第5番、プロコフィエフ:交響曲第7番」は、当時としては非常に珍しいステレオで録音されたオリジナル・マスター・テープを新たに最新デジタル化、入念なマスタリングを経てCDマスターとして使用した世界初の発売音源をCD化した作品です。続いて、②1965年収録の「ショスタコーヴィチ:交響曲第5番」、③「R.シュトラウス:アルプス交響曲、楽劇サロメ『作品54』より7つのヴェールの踊り」のいずれも大変貴重な全3作品を発売いたします。

また、この度、日本コロムビアと共同で「The Valued Collection」レーベルを発足。日本を代表するクラシック・レーベルである日本コロムビア(DENON)が有する数多くの音源の中から、名演をセレクト、タワーレコード・オリジナル企画盤としてCD化していきます。その第1弾として、①日本フィルハーモニー交響楽団の作品のなかから、1963年当時、モーツァルト指揮者として世界的に有名なペーター・マークによる指揮「モーツァルト:交響曲第39&41番、リハーサル風景付き」。②日本フィル交響楽団との伝説の名演でクラシックファンに知られている、世界初のステレオ録音による、「シベリウス:交響曲全集/渡辺暁雄(指揮)」(1962年作品)が約16年振りにCDとして音源化。さらに、③超絶的名演と伝説になった1979年のライブ「マーラー:交響曲第9番/エリアフ・インバル(指揮)」の名演集の全3作品を発売が決定しました。なお、「The Valued Collection」レーベルでは、今後も継続的にオリジナル企画盤を発売していきます。

タワーレコードでは、今後もクラシックファンに楽しんでもいただけるようオリジナル企画盤を発売し、クラシックの音楽シーンをさらに盛り上げてまいります。



タワーレコード・オリジナル企画盤

左から 山田一雄 生誕100周年記念山田一雄(指揮)&日本フィルハーモニー交響楽団 3作品

コロムビア・日本フィルハーモニー交響楽団 名演集3作品

■ 本件に関するお問合せ先 ■

タワーレコード株式会社 広報室 担当:谷河(やがわ)、高橋、松本、伊早坂

TEL 03-4332-0705 E-mail press@tower.co.jp

◆ タワーレコード・オリジナル企画盤～山田一雄 生誕100周年記念 ◆
山田一雄(指揮)&日本フィルハーモニー交響楽団 3作品 概要

世界初発売！解散直前の日本フィルとの一期一絵のチャイ5 が衝撃のリリース！1972 年収録。

「～日本フィルは1972年6月に解散、分裂した歴史を持つ。その直前はこのオーケストラの一番良かった時期とも言われるが、この2 曲のライブはそれが正しかったことを証明するものであろう。(平林直哉)」

世界初リリース。解散直前の旧日本フィルとの2作が衝撃の登場。ヤマカズさんのチャイ5 と言えば、亡くなる2年半前の新星日響との盤が発売されていますが、今回初登場の5番はそれより27 年も前の記録。しかもこの年の3月に有名な日本フィルの“契約解除”騒動があり(財団法人の解散は同6月)、この後オケの分裂という、日本のオケとしてもこれまで経験の無い領域に突入することになります(後の日フィル争議)。肝心の演奏ではまさに彼の熱いチャイコ節が炸裂。ゆったりとしたテンポで開始される導入部、思い入れたっぷりに歌い上げられる第二主題を聴くと、この演奏が稀有なバランスで成り立っている名演であることに気付かされます。これこそヤマカズ節の真骨頂。併録のプロコの7番は彼のディスコグラフィに初めて登場する曲。プロコの交響曲の中では1番に続き親しみ易い曲であるとは言え、演奏機会は少ない曲です。ここでも旋律を重視した音作りで、複雑さを感じさせない充実した響きの構築に成功しています。それにしても、日本のオケで、しかも約40年前にこれだけの叙情性を持った音作りをしていたとは驚きです。この後、この響きが暫く失われることになったのは残念なことでした。

【タイトル名】チャイコフスキー:交響曲第5番、プロコフィエフ:交響曲第7番／

山田一雄、日本フィルハーモニー交響楽団

【収録曲】1.チャイコフスキー:交響曲第5番 ホ短調 作品64 2.プロコフィエフ:交響曲第7番 嬰ハ短調 作品131

【演奏】山田一雄(指揮)/日本フィルハーモニー交響楽団

【録音】1972年1月(1)、1972年1月27日(2)、ライブ

【発売日】12月19日(水) 【品番】TWCO-1010 【価格】¥1,200(税込)

【企画・販売】タワーレコード株式会社 【制作・発売】日本コロムビア株式会社

【制作協力】株式会社文化放送、財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

※初発売

※オリジナル・マスター・テープより最新リマスタリング

※解説:平林直哉氏



初発売！日本初演も果たしたショスタコ 5 番は初リリース曲！1965 年のステレオ収録。

「このディスクの演奏は、まず年代らしからぬ音質の良さに驚く。それ以上に演奏が素晴らしい。まず、第1楽章の序奏の、なんという濃い響き。思わず息を飲むとはこのことだ。～(後略(平林直哉))こちらにも衝撃のリリース！彼のディスコグラフィでも初登場となるショスタコ5番が登場します。当時この曲を既に録音していた西側の演奏(ミトロプーロス、バーンスタイン、ロヴィツキ、シルヴェストリ、ストコフスキー、スクロヴァチェフスキー等)と比較してゆったりとしたテンポで進行しながらも、凝縮度は失われていません。

当時、上田仁&東京フィルによりショスタコ作品がいくつか日本初演されていたとは言え、もちろん1965年当時(作曲者存命中)では5 番でさえもレパートリーに定着しておらず、演奏には困難を極めたのではないのでしょうか。それにしても後のソ連崩壊後から始まるショスタコ受容の変化を予測するかのようなダイナミックな演奏には驚かされます。日本初演から始まる5番の日本での演奏史は、ヤマカズさん抜きでは語ることができないと言えるでしょう。

【タイトル名】ショスタコーヴィチ:交響曲第5番／山田一雄、日本フィルハーモニー交響楽団

【収録曲】ショスタコーヴィチ:交響曲第5番 ニ短調 作品47

【演奏】山田一雄(指揮)/日本フィルハーモニー交響楽団

【録音】1965年12月27日 ライブ

【発売日】12月19日(水) 【品番】TWCO-1011 【価格】¥1,200(税込)

【企画・販売】タワーレコード株式会社 【制作・発売】日本コロムビア株式会社

【制作協力】株式会社文化放送、財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

※初発売

※オリジナル・マスター・テープより最新リマスタリング

※解説:平林直哉氏



初発売！日本初演時、演奏にも参加した山田一雄渾身のアルペンは 1969 年の貴重な記録

「まずアルプス交響曲だが、1969年当時の記録用録音ということを考えると、十分すぎるほど立派な音質である。全体の印象としては、ごく細かいミスはあるものの、一発勝負のライブでこれだけの大所帯をきっちりとまとめあげた手腕に脱帽しないわけにはいかない。～(後略)(平林直哉)」指揮を師事したプリングスハイム指揮により、1934年10月30日に奏楽堂でR.シュトラウス生誕70年記念の演奏会が開かれました。そこで日本初演された『ツァラトゥストラはかく語りき』と『アルプス交響曲』の演奏に加わっていたというエピソードがあります。それから34 年後の貴重な記録が本作。彼のディスコグラフィでも初登場となる注目作の登場です。『アルプス交響曲』はバンダや特殊楽器も数多く含む巨大編成のため今日でも演奏機会が少ない作品ですので、1969年当時はよほどの事が無い限り演奏に踏み切ることにはできない難易度が高い曲だったはずです。オケメンバーの努力もさることながら、得てして長大なこの曲を一瞬たりとて弛緩させない音楽として導いているのは彼ならではの、7つのヴェール～での緊張感溢れる構成的な見事です。

【タイトル名】R.シュトラウス:アルプス交響曲、楽劇「サロメ」作品54より 7つのヴェールの踊り／

山田一雄、日本フィルハーモニー交響楽団

【収録曲】R.シュトラウス:1.アルプス交響曲 作品64 2.楽劇「サロメ」作品54より 7つのヴェールの踊り

【演奏】山田一雄(指揮)／日本フィルハーモニー交響楽団

【録音】1969年1月16日(1)、1971年1月27日(2)、ライブ

【発売日】12月19日(水) 【品番】TWCO-1012 【価格】¥1,200(税込)

【企画・販売】タワーレコード株式会社 【制作・発売】日本コロムビア株式会社

【制作協力】株式会社文化放送、財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

※初発売

※オリジナル・マスター・テープより最新リマスタリング

※解説:平林直哉氏



◆ タワーレコード・オリジナル企画盤 ◆
 ～コロムビア・日本フィルハーモニー交響楽団 名演集3作品 概要～



屈指のモーツァルト指揮者ペーター・マーク&日本フィルの貴重な記録！1963年の良質なステレオ録音

当時既にモーツァルト指揮者として世界的に有名だったペーター・マークとの一連の共演はかなりの注目でした。前年に同じく35 & 40番他を両者は演奏していたとはいえ、この盤は現在聴いてもその水準の高さに驚かされます。若林駿介氏による録音も1963年とは思えない瑞々しい音です。60分弱の貴重なリハ付き。16年振りの復刻！

客演時44歳という若き日のペーター・マークのこの演奏は、既に同時期DECCAと多くの録音を行い、今日でも名高い名盤の数々を制作していたこともあるためか、年齢から来る経験不足や音楽的な貧弱感など皆無の素晴らしい演奏を披露しています。とりわけモーツァルトは当時から第一人者と評価されており、共演する日本フィルも異常な熱気を持って能動的な演奏を披露しています。録音のレベルも高く、現在聴いても遜色無いばかりか、当時の日本のオケの弦の優秀さも如実に記録されている名演奏です。尚、解説書は貴重な初発売時のものをそのまま掲載しました。

【タイトル名】モーツァルト：交響曲第39&41番、リハーサル風景付き／
 ペーター・マーク、日本フィルハーモニー交響楽団

【収録曲】モーツァルト

〈DISC1〉 1.交響曲第39番 変ホ長調 KV543 2.交響曲第41番 ハ長調 KV551「ジュピター」

〈DISC2〉 3.交響曲第39番 変ホ長調 KV543 ～リハーサル風景

4.交響曲第41番 ハ長調 KV551「ジュピター」 ～リハーサル風景

【演奏】ペーター・マーク(指揮) / 日本フィルハーモニー交響楽団

【録音】1963年9月30日、10月1日、

日本フィルハーモニー交響楽団練習会場(フジテレビ・スタジオ)

【発売日】12月19日(水) 【品番】TWCO-27 【価格】¥2,100(税込)

【企画・販売】タワーレコード株式会社 【制作・発売】日本コロムビア株式会社

※ステレオ録音 ※オリジナル・ジャケット・デザイン使用 ※リハーサル風景付き(訳：若林駿介氏)

※解説：大塚明氏、門馬直美氏、解説書全 17 ページ

※ジャケットのオーケストラ名表示は初発売時のもののため旧名になっておりますが、現在は「Japan Philharmonic Orchestra」が正式名称です。



世界初のステレオ録音によるシベリウス：交響曲全集。日本フィルとの伝説の名演が約16年振りに復活！

当時プロデューサーであった相澤昭八郎氏渾身のこの企画は、世界で初めてのステレオによる全集録音として、日本発の盤が米EPICレーベルから海外でも発売されるという金字塔を成し遂げた記念碑的録音。この盤は当時の気鋭そのままに、若林駿介氏による良録音と相俟って、現在聴くことができる最高のシベリウスのひとつです。

渡邊暁雄は、日本フィルとは切っても切り離せない重要な指揮者であり、創立指揮者、常任指揮者、音楽監督として永きにわたって密接な関係を築きました。特にシベリウスに関しては、当時まだそれほど日本で演奏されていなかったにもかかわらず、生涯をかけて紹介し続けたことで重要な功績を残しました。この後、1981年には自身2度目の全集を同じく日本フィルと完成させますが、この第1回目の録音は決して色褪せていない素晴らしい遺産です。1960年代前半の日本でのシベリウス演奏史の貴重な記録(まだシベリウス亡くなってから5年も経過してしない)であるばかりか、世界と肩を並べる名盤だったのです。シベリウスを語る上で外すことができない重要な演奏です。また今回、1996年に初めてCD化されたときにも掲載されていた、当時の詳細な解説もそのまま復刻しました。

【タイトル名】シベリウス：交響曲全集／渡辺暁雄、日本フィルハーモニー交響楽団

【収録曲】シベリウス

〈DISC1〉 1.交響曲第1番 ホ短調 作品39 2.交響曲第3番 ハ長調 作品52

〈DISC2〉 3.交響曲第2番 ニ長調 作品43

〈DISC3〉 4.交響曲第4番 イ短調 作品63 5.交響曲第5番 変ホ長調 作品82

〈DISC4〉 6.交響曲第6番 ニ短調 作品104 7.交響曲第7番 ハ長調 作品105

【演奏】渡辺暁雄(指揮) / 日本フィルハーモニー交響楽団

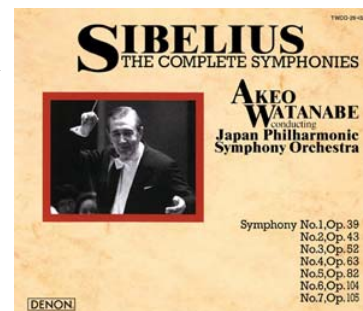
【録音】1962年5月7,8日(1)、6月20,21日(4)、8月7,8日(2)、東京文化会館

1962年(3)、3月7日(7)、杉並公会堂 1962年2月18日(5)、1962年(6)、文京公会堂

【発売日】12月19日(水) 【品番】TWCO-29 【価格】¥3,675(税込)

【企画・販売】タワーレコード株式会社 【制作・発売】日本コロムビア株式会社

※ステレオ録音 ※オリジナル・ジャケット・デザイン使用 ※解説：相澤昭八郎氏、菅野浩和氏、解説書全 27 ページ



日本はインバルにより30年以上も前からマーラーの薫陶を受けていた！
1979年11月、伝説の日フィル定期演奏会ライブが再現！

インバルは1970年代から日本のオケに客演しており、マーラーも都度取り上げていました。まだブームが来る前とはいえ、日本の聴衆はその後30年以上にわたってインバルからマーラーの教えを受けているのです！この1979年のライブは現在でも語り草になっている超絶的名演。これまで1度しか発売されていない名盤が、16年振りに復刻！

日本でのマーラー9番の演奏史は浅く、1967年にコンドラシン/モスクワ・フィルにより初演されて以降、1970年のバースタイン/ニューヨーク・フィルの超絶的名演と、同じく1985年イスラエル・フィルとの伝説的名演に並び、このインバル/日本フィルの9番も日本での演奏史上、重要な演奏のひとつに違いありません。しかも日本のオケとの演奏ということになると、まだ日本初演から10数年しか経過していない中で行われたこの演奏は、日本でのマーラー演奏史上、まさに白眉と言えるのではないのでしょうか。日本のオケによる、まだマーラー・ブーム以前のこの演奏はその意味でも興味深い記録です。尚、当時のインバル客演時の詳細は、ブックレットの解説に詳しく掲載されています。

【タイトル名】マーラー：交響曲第9番／エリアフ・インバル、日本フィルハーモニー交響楽団

【収録曲】マーラー：交響曲第9番

<DISC1> 1.第1楽章 2.第2楽章

<DISC2> 3.第3楽章 4.第4楽章

【演奏】エリアフ・インバル(指揮)/日本フィルハーモニー交響楽団

【録音】1979年11月19日、東京文化会館ライブ

【発売日】12月19日(水) 【品番】TWCO-33 【価格】¥2,100(税込)

【企画・販売】タワーレコード株式会社 【制作・発売】日本コロムビア株式会社

※オリジナル・ジャケット・デザイン使用

※解説：森泰彦氏、解説書全8ページ

